



平成 19 年 11 月 22 日

各 位

会社名 さくらインターネット株式会社
代表者名 代表取締役社長 兼
最高経営責任者 笹田 亮
(コード番号 3778 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者
片岡 督雄
(TEL. 06-6265-4830)

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

この度、当社において、下記のとおり特別損失が発生する見込みとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成 19 年 5 月 15 日の決算発表時に公表いたしました平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)の中間期及び通期の業績予想を修正いたします。

また、特別損失の計上により、誠に遺憾ながら平成 20 年 3 月期中間期末において、当社ならびに当社グループは債務超過となる見込みであることもあわせてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

(1) 固定資産等の減損損失(連結・個別)

当社が保有する固定資産等の一部(オンラインゲーム事業のロード・オブ・ザ・リングス オンラインに関連する工具器具備品、ソフトウェア、専用実施権、リース資産)について、将来の回収可能性を検討した結果、3億91百万円の減損損失を計上しております。

(2) のれんの減損損失(連結)

当社連結子会社の現在の事業環境から将来の損益状況及び今後の見通し等を勘案した結果、短期的な純資産価値の回復が困難との判断に至り、連結業績において、のれんの一部を償却したことより54百万円の減損損失を計上しております。

(3) 関係会社株式評価損(個別)

当社の連結子会社ならびに持分法適用関連会社の業績等を勘案し、個別業績において関係会社株式評価損として98百万円を計上しております。

(4) 投資有価証券評価損(連結・個別)

当社が保有する投資有価証券のうち、実質価額が著しく下落しその回復があると認められないものについて、投資有価証券評価損として65百万円を計上しております。

2. 平成20年3月期中間業績予想数値の修正（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

(1) 連結 (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	3,321	54	21	7
今回修正予想 (B)	3,131	18	△21	△568
増減額 (B-A)	△190	△36	△42	△575
増減率 (%)	△5.7	△66.6	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成19年3月期中間期)	2,042	△150	△168	△156

(2) 個別 (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	3,032	69	38	34
今回修正予想 (B)	2,960	70	41	△570
増減額 (B-A)	△72	1	3	△604
増減率 (%)	△2.3	1.4	7.3	—
(ご参考) 前期実績 (平成19年3月期中間期)	1,880	△130	△147	△145

3. 平成20年3月期通期業績予想数値の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

(1) 連結 (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	7,216	334	282	161
今回修正予想 (B)	6,374	28	△44	△457
増減額 (B-A)	△842	△306	△326	△618
増減率 (%)	△11.6	△91.6	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成19年3月期通期)	4,703	△271	△346	△493

(2) 個別 (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	6,523	312	252	161
今回修正予想 (B)	6,084	99	43	△427
増減額 (B-A)	△439	△213	△209	△588
増減率 (%)	△6.7	△68.2	△82.9	—
(ご参考) 前期実績 (平成19年3月期通期)	4,398	△123	△162	△358

4. 中間期業績修正の理由

個別業績につきましては、売上高は主軸事業であるデータセンター運営事業では旺盛な需要を背景に堅調に推移しておりますが、平成19年6月より開始のオンラインゲーム「ロード・オブ・ザ・リングス・オンライン」の有料会員数が当初予想より低く推移していることにより前回予想を下回る見通しです。経常利益は堅調なデータセンター運営事業における、付加価値が高く利益率の高いサービスが好調であったことに加え、経費全体の見直しを図り、業務の効率化を進めた結果、予想を上回る見通しです。一方で、オンラインゲーム事業の不振に伴う固定資産の一部における減損損失の計上、関係会社株式評価損ならびに投資有価証券評価損の計上により特別損失が発生しております。これに加え、繰延税金資産を取崩し、法人税等調整額を計上しており、中

間純利益につきましては前回予想を下回る見通しです。

連結業績につきましては、個別業績の修正理由に加えて、連結子会社の業績不振により売上高は前回予想を下回る見通しです。また、それにともない、営業利益、経常利益、中間純利益につきましても、前回予想を下回る見通しです。なお、関係会社株式評価損は、連結処理上は消去されるため連結業績における計上はありませんが、のれんの一部償却により減損損失を計上しております。

5. 通期業績修正の理由

中間期業績予想の修正を踏まえて、通期業績予想につきましても連結・個別においてそれぞれ修正を行っております。

なお、オンラインゲーム事業の不振に伴う固定資産の一部における減損損失の計上、関係会社株式評価損ならびに投資有価証券評価損の計上に関しましては、有税処理をした結果、法人税等を計上しているため当期純利益が前回予想を下回る見通しです。

6. 債務超過の解消について

多額の特別損失の計上に伴い株主資本が大幅に減少し、誠に遺憾ではありますが、中間期末において当社は連結・個別において債務超過の状態となる見通しであります。当社は、早期に債務超過状態を解消するため、事業の一部売却及び資本増強を検討しております。

事業の一部売却に関しましては、「インターネット接続事業の一部を譲渡に関するお知らせ」とおり売却の決議を行っております。また、資本増強に関しましては、第三者割当増資を検討しており、すでに、第三者割当増資引受の候補を数社に絞って交渉を開始しております。

債務超過の解消については、内容が決定しだい随時発表させていただき所存でありますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

7. 経営責任について

このたびの特別損失の発生及び業績予想の修正ならびに債務超過に陥るという事態を真摯に受け止め、経営責任を明確にするため役員報酬の減額をいたします。

(1) 役員報酬減額の内容

全取締役を対象に平成19年10月より債務超過が解消するまで月額報酬の50%減額、
その後は欠損が解消するまで月額報酬の30%減額

8. 今後の経営改善方針

当社においては、早期に債務超過を解消し財務体質の強化を図るとともに、事業基盤を確立することが最重要課題であると考えております。

当社は、安定した事業基盤の確立に向けて、当社の主軸事業であるデータセンター運営事業に経営資源を集中し、確実に利益を生み出す体質作りに取り組んでまいります。また、当社グループ全体として、事業の採算性・成長性を厳しく精査して不採算事業の整理やさらなる業務効率化に努めるとともに内部管理体制の再構築を図り経営効率を高めてまいります。

債務超過状態の解消に向けた諸方策、今後の経営改善に向けた具体的な取り組みにつきましては、決定次第、随時発表させていただき所存でありますので、何卒、ご理解賜りますようお願いいたします。

株主および投資家の皆様をはじめとして、取引先、金融機関、関係各位に対して大変ご迷惑お掛けいたしますこと深くお詫び申し上げます。

なお、当初、平成19年11月14日に予定しておりました平成20年3月期中間決算発表につきましては、平成19年11月27日を予定しております。

※ 上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上